



金在原議員(右)と懇談する笠井氏(左奥)
=10月19日、ソウル市(山内聡秘書撮影)

歴史対話

上

笠井議員の韓国訪問

日本共産党の笠井亮衆院議員は10月17、20日、韓国を訪問し、朝鮮王朝儀軌の返還問題で交流した各界関係者と交流しました。

日本軍「慰安婦」問題の解決に背を向ける日本政府の無責任な姿勢とあわせ、竹島(韓国名・独島)問題がいま、日韓関係を過去最悪の状態にまで悪化させています。韓国訪問を通じて笠井氏は、日本共産党の第5回中央委員会総会(10月14、15日)で採択された幹部会報告の竹島関係部分

(韓国語訳)を各界関係者に手渡し、打開の方向性を率直に話し合いました。与党セヌリ党の金在原議員とは10月19日、同議員が国会農林水産食品委員会の行政調査のために訪れていた水産業協同組合(水協)中央会で懇談。水協は、全国92漁業組合56万人を組織する漁業団体で、玄関ホー

ルに「独島は水協が守る」と大書した横断幕を掲げるなど、領有権問題で強硬な主張をする団体の一つです。

与党議員「討論必要ない」の態度から一転

四面楚歌

2階に設けられた議員控室での懇談は、「農水族」議員らが会話を耳をそばだて「独島は韓国の領土だよねあ」と話しながら庄迫する「四面楚歌」の雰囲気で行われました。

笠井氏は、竹島は歴史的にも国際法的にも日本の領土であると同時に、この島を日本に編入した1905年という時期は、日本による韓国の植民地化の時期と重なっていることなどを挙げて、5中総報告の内容を詳しく説明。その上で、冷静な話し合いのテーブルをつくるために、▽日本政府が1910年の韓国併合について、不法・不当なもの

だったということを認めること▽日本軍「慰安婦」問題などの植民地犯罪について謝罪と賠償を行うこと▽の二つが特に重要だと語りました。

これに対し、金議員は独島の領土問題は存在しない。韓国が実効支配しているの、討論も必要ない」と韓国側の立場を表明。「尖閣問題で、日本が『領土問題は存在しない』と言っているのと同じだ。独島になると、違つことを言うのはおかしい」と、日本政府の態度の矛盾も指摘しました。

には、議員のお考えに同意できる」と表明。自身の祖父が、日本の植民地時代に(麻生太郎元総理の曾祖父が創業した、福岡県の)麻生炭鉱で働かれ、じん肺を患って帰国したというエピソードを明かし、「侵略戦争を正当化する日本側の話を聞くたびに、事実と違うと思っていた。笠井議員のような方が日本で増えれば、日本と韓国がもっと親密な友人になれると思う」と語りました。

がんばれ

別の国会関係者との懇談では「提唱は」おっしゃる通りだ。結局は歴史認識の問題だと思う」「領土問題では、やはり、日本側が全体的な戦略を立てて、アプローチしてくれば、一気に解決できなくても、現在の状況にはならないと思う。日本共産党、がんばってください」と期待の声が寄せられました。

笠井氏は「それでは解決できない。どうやって冷静な話し合いのテーブルをつくるかが大事ではないか」とさらに詳しく、日本共産党の見解を説明。「竹島問題で立場は違つが、日本が過去の侵略戦争と植民地支配の真剣な反省を土台にしてこそ、道理ある解決の道が開ける。侵略戦争と植民地支配に反対した政党だからこそ、このような提唱ができる」と党の90年の歴史にもふれて語りました。

笠井氏の話の時折、うなずきながら聞いていた金議員は「笠井議員のお話を感動的に受け止めた。基本的

(つづく)

党の竹島提唱に「感動」



竹島(韓国名・独島) = 8月10日(ロイター)

歴史対話

下

笠井議員の韓国訪問

「あなたと会えてうれしい。今まで嫌だったけど、今日はあなたのためだけに日本語で歌いたい」。日本の植民地時代に「慰安婦」とされた被害者の女性は、笠井氏にこう語りかけました。

熱い握手

10月18日、笠井氏は、朝鮮王朝儀軌の返還で知己を得た朝鮮王家の末裔、李源(イソン)皇室文化院総裁とともに、元「慰安婦」の女性8人が共同生活する「ナヌムの家」(京畿道広州市)を訪問。笠井氏らを安信権(アンソンゴン)所長と、韓日メディアの取材カメラと記者の列が出迎えます。

た。

この訪問は、安所長の招待にこたえたもの。橋下徹大阪市長をはじめ、「慰安婦」問題で強制性を否定する発言が相次ぐ中、被害女性らが「うそだと言うなら、すぐにでも日本に行って証言したい。しかし高齢で難しいので、ぜひ来てほしい」と8月、橋下氏らや日本の衆参全国会議員、合わせて724人に招待状を送りました。

これを受けて実際に訪問したのは、笠井氏が初

めて。「この日を待っていた。よく来てくれた」と歓迎の声があがりました。

笠井氏は、亡くなった元「慰安婦」が眠る追悼碑に献花した後、日本政府に謝罪と賠償を求める活動を紹介するビデオを視聴。歓迎の横断幕が張られたホールで被害女性6人と懇談しました。彼女たちの平均年齢は87歳。韓国政府に届け出た被害者は2334人ですが、生存者は現在わずか60人です。

自らの苦痛に満ちた体験を語り、「日本政府の心からの謝罪を聞くまでは死ねない」と涙ながらに訴える女性らに、笠井氏は、「生きている間に、日本政府の謝罪と賠償が行われるよう努力する」

金順玉キム・スノクさん(右)から話を聞く笠井氏(左) 10月18日、京畿道広州市(山内聡秘書撮影)



と約束。これを聞いた朴玉善(パクヨクセン)さんはすくくと立ち上がり、「ありがとうございます。よろしくお願ひします」と手を握りました。

対比報道

笠井氏の訪問が、自民党・安倍総裁が、侵略戦

争を美化する靖国神社に参拝した翌日だったこともあり、韓国メディアは、両者を対比して報道。ハンギョレ新聞の論

説委員は、10月23日付のコラムで「個人レベルではなく、彼が所属する日本共産党の方針の中で行われたものだ」と指摘し、「韓国政界にも示唆するところが大きい」と評価しました。

韓国では、北朝鮮とのことから反共意識が根強く、韓国メディアが日本共産党の活動を紹介する際に党名を書かないこともこれまで多くありましたが、今回は、例外なく党名を書き、「笠井氏の訪問が、日本共産党の衆参全議員を代表した」と伝えました。

日本メディアの韓国駐在特派員からは「日本人として救われた思いがした」との感想も寄せられました。

ました。

今回の訪問を通じた成果について、笠井氏は、こう語ります。

「2006年の志位(和夫)委員長の訪韓で交流の扉を本格的に開いて以来、日本共産党への信頼が日々、強まってきたのを感じます。とりわけ、朝鮮王朝儀軌の返還にともにとりくみ、実現した意味は大きい。日韓関係が行き詰まっている中で、竹島問題も日本が過去の植民地支配を根本的に反省・清算し、冷静な話し合いのテーブルをつくり、両国で歴史的事実を突き合わせた共同研究を行い、解決への道を開く以外にない。この党の提唱が理性的に受け止められました。今回の訪問で、改めて日本共産党が日本政界で果たす役割に注目が集まったと思います」

(おわり)

「慰安婦」追悼VS靖国参拝